

番号	課名	グループ名
G - 27	文化・文化財課	文化・文化財

事務事業名	市民会館運営事業		新規・継続	継続
			ソフト・ハード	ソフト
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	V-15-34	市民の文化・芸術活動の活性化及び伝承	
	関連施策名 (施策コード)	II-6-12	「うすき暮らし」の推進	
		V-14-32	生涯を通じた学びの推進	

基本項目	事業内容 (経緯)	自主文化事業として、NHKとの共同主催で「民謡魂 ふるさとの唄」、うすき竹宵20回記念事業「WA-OTOコンサート」を実施し、併せて1671名の来場者数があり、入場者率は83.6%となりました。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
					H25	H26	H27			
		①	自主文化事業入場者数	市主催の自主事業の入場者数 (共催事業含む)	人	1,010	604	2,312	1,671	
		②	大ホール利用日数	主なホールである大ホールの利用日数	日	72	95	102	95	
		③	市民会館運営委員会の開催	市民代表による運営委員会の開催数	回	2	1			
	④									
	事業対象	市民会館利用者	成果	共同主催や記念事業による自主事業を実施することで、入場者率が80%を超え、質の高い音楽を提供することができました。						
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
					H25	H26	H27			
	貸館稼働率	大ホール、小ホール、リハーサル室、会議室の稼働率	%	37	44	40	42	55		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	16,333						16,333

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	近年は概ね稼働率が40%を超えており、他の同等施設と比べ、良い結果となっているが、公民館と比べると使用料が高いため、限られた団体しか使用していない。	
		B	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか	市民会館の目的である芸術文化の拠点としての役割は設置後25年経て、芸術文化の多様化により会館だけの芸術・文化の振興だけでは無くなってきていると考えられる。	
B		A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか	自主文化事業をNHK等の公開番組を誘致することで、費用を抑えながら、入場者数を増やせる。また、今年は竹宵20回記念事業を行い、多くの観客が満足し、効果はあったと考える。		
	A	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ている		

事業の問題・課題	運営に関しては、営業等の業務ができにくいと、将来、指定管理を踏まえた検討が必要。
前年度の改善案	今年度もNHKの公開番組を誘致したことで、昨年同様、入場者数は向上した。
具体的な改善案	昨年の課題であった自立した企画運営は、市民会館の大規模改修工事計画のため、出来なかった。しかし、NHKの公開番組を誘致したことで、昨年同様、入場者数は向上した。少ない経費で、稼働率や利活用の割合を挙げていきたいと考える。

課長評価	見直し(縮小、休止、廃止)を検討する(見直し)	理由	市民が使いやすい会館の在り方について教委としての方針を副市長へ提案。使用料改定や指定管理導入等について指摘を受けたが、今年度中に改善することができなかった。来年度の検討課題としたい。
------	-------------------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート  
(平成 28 年度)

番号	課名	グループ名
G - 28	文化・文化財課	文化・文化財

事務事業名	市民会館管理事業						新規・継続	継続		
						ソフト・ハード	ハード			
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	V-15-34	市民の文化・芸術活動の活性化及び伝承							
	関連施策名 (施策コード)	II-6-12	「うすき暮らし」の推進							
		V-14-32	生涯を通じた学びの推進							
事業内容 (経緯)	本年度、大規模な修繕工事の計画を立て、次年度より実施することが決まりました。市民に安心安全な施設の提供を行いました。									
基本項目	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
					H25	H26	H27			
		①	改修工事費	施設の改修工事にかかる費用	千円	65,693	31,970	2,864	18,961	213,627
		②	使用料収入	各ホール使用料収入	千円	6,558	11,800	10,473	11,616	11,000
		③								
④										
事業対象	市民会館利用者		成果	大規模な修繕工事は次年度から始まるが、5月から8月の稼働率が40%を超え、多くの市民の方に利用してもらいました。						
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値		
				H25	H26	H27				
	利用者数	会館全体の総利用者数 (大ホール・小ホール、リ ハーサル等)	人	48,485	53,088	48,932	43,030	50,000		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	35,355						35,355

評価の視点	評価		判断基準			理由
	必要性	B	目的が市民ニーズに照らして妥当か			市民会館を利用している方には、ニーズは妥当であるが、利用していない市民にとっては適用していないと考えられる。
			A: 適応している	B: 一部適応していない	C: 適応していない	
	有効性	B	目的や目標に照らして予想される効果が見られるか			夏場の利用率は60%を超えたが、その他は昨年と変わらないため、大きな効果は見られない。
A: 期待したとおりの効果がある			B: 期待したほどの効果が見られない	C: 効果が少ない		
効率性	C	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか			築5年を経て、施設・設備の老朽化が顕著となっており、改修工事や修繕に多額の費用がかかる見込みであるため、稼働率が向上してもコスト面から効率的な効果が出せないとする。	
		A: 効率的に効果が出ている	B: 改善の余地がややある	C: 効率的に効果が出ている		
事業の問題・課題	今年度、大規模改修工事の中長期計画が出来て、来年度以降、工事が始まるため、施設が使えない期間が発生するため、利用率と収入の面で大きく減少する恐れがある。					
前年度の改善案	概ね大規模改修工事の計画が出来上がったため、平成29年度より実施することができる。					
具体的な改善案	工事の工程は利用者に迷惑がかからないよう、計画的に実施するよう打ち合わせを密にし、工事を行う。					

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	大規模改修工事の中長期計画の実施にあたっては将来的な運営の在り方をしっかりと整理した上で市民ニーズに合った施設の改修を進めていく必要がある。
------	---------------	----	--

番号	課名	グループ名
G - 29	文化・文化財課	文化財研究室

事務事業名		埋蔵文化財発掘調査						新規・継続	継続	
								ソフト・ハード	ソフト	
総合計画との関連	主要施策名(施策コード)	V-15-35	歴史・文化遺産の保存、継承							
	関連施策名(施策コード)	IV-9-18	歴史・文化遺産の活用による観光産業の発展							
基本項目	事業内容(経緯)	昨年度に実施した九電日向幹線鉄塔建設に伴う発掘調査の報告書を刊行しました。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値	
					H25	H26	H27			
		①	発掘調査作業進捗率	王子ヶ城調査進捗率	%	-	-	81	100	0
		②								
③										
④										
事業対象		成果	報告書を刊行し、遺跡の価値を一般の方々に伝えることができました。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値		
				H25	H26	H27				
	開発により消滅する遺跡記録保存件数	文化財関係調査研究報告書の刊行件数(累計)	件	31	32	33	35	36		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	4,854					3,638	1,216

評価の視点	評価	判断基準		理由	
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	B A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない		臼杵の歴史資料の公開を望み、生涯学習の教材やまちづくりの素材として活用したいという声がある反面、まだ臼杵の歴史を知ることが、自らの生活や将来とは無関係という意識があり、発掘調査がすべて市民ニーズになっているとはいえません。
		目的や目標に照らして予想される効果が得られるか	A A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
	有効性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか	A A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ない		臼杵は今後も歴史性を活かしたまちづくりに取り組んでいくことから、その基礎となる歴史資料の調査・研究・成果公表は、市政の要のひとつとして行政資源量に見合った効果をもたらせています。
効率性					
事業の問題・課題	臼杵の埋蔵文化財資料は質・量ともに極めて資料価値が高いものが多い。しかし、発掘調査によって出土した遺物の整理ができておらず、報告書の刊行ができていないものがあり、一般市民等に公開できていない状況です。				
前年度の改善案	資料整理を効率的に行うために、計画を立てて迅速かつ適切な方法で整理作業を行っていきます。そうすることが報告書編集を迅速に行うことにつながると考えます。				
具体的な改善案	報告書の刊行についても次回の大型発掘調査(対象面積3,000㎡超)から民間委託を検討します。				

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	資料整理員(臨時職)等の人員配置が厳しくなる中、直営でできる業務と民間委託できる業務を明確に区分し遺物の整理や報告書の刊行作業を効率のかつ迅速に進めていく必要があります。
------	---------------	----	---

番号	課名	グループ名
G - 30	文化・文化財課	文化財研究室

事務事業名		埋蔵文化財活用事業					新規・継続	継続		
							ソフト・ハード	ソフト		
総合計画との関連	主要施策名(施策コード)	V-15-35	歴史・文化遺産の保存、継承							
	関連施策名(施策コード)	IV-9-18	歴史・文化遺産の活用による観光産業の発展							
基本項目	事業内容(経緯)	文化財の整理・収蔵・展示機能を持った臼杵市文化財管理センターの事業として、史跡・遺跡の解説パンフレットや現地解説板の整備、文化財愛護普及活動を行いました。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値	
					H25	H26	H27			
		①	出前授業等の実施	年間開催回数	回	2	3	3	4	5
		②								
③										
④										
事業対象	一般市民・学術研究者	成果	管理センター所蔵資料を活用し、中学生に臼杵城の歴史的意義を伝えることができました。 キリシタン遺跡ガイドブックを刊行したことで、市民の方々へ今後のキリシタン遺跡保存活用への理解を求める準備ができました							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値		
				H25	H26	H27				
	遺跡ガイドブック刊行数	年間刊行数	種	0	0	1	1	1		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	3,945		1,958				1,987

評価の視点	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	理由 埋蔵文化財の円滑かつ積極的な活用のために、資料を整理・分類して一括して収蔵し、散逸を防ぐ施設は必要です。
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	市街地や学校から遠い位置にあることから、利用には不便であるのも確かです。スクールバス等の活用などの工夫が必要です
	効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	非常勤職員・臨時職員に展示計画を任せることで、非常勤職員等のスキルアップ向上につながり、わかりやすい展示の実現ができてきています

事業の問題・課題	埋蔵文化財の保管は大きな課題であり、施設整備を行い市内に点在している収蔵場所を集約することで、管理面や整理面からも有効な事業です。また、公開への取組みも進捗し、学校の児童生徒のみならず、学術研究者の利活用が活発化することで、臼杵の豊かな歴史性を広くアピールできると考えます。
前年度の改善案	整理計画の中で、効率性のある内装立案を行います。 収蔵資料数の増加に対応できるよう、遺物コンテナ配置位置や収納棚配置に工夫をし、現在保有する遺物箱6000箱の3倍程度の収納が可能となります。
具体的な改善案	将来的な資料の増加と、これらの活用とのバランスを図るために、資料の整理収納と管理の方法をマニュアル化し、ソフト面からも施設の機能を高める工夫をします。また、展示コーナーについては、時系列で考古資料の展示を行い、年少者から大人まで、時代の移り変わりとともに物の形が変わっていく様子とその理由をわかりやすく理解できるように配慮しています。

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由 教育素材として効果的に活用してもらうためにも、まずは学校の児童生徒が見学に訪れることのできる仕組みづくりを最優先に取り組みする必要があります。
------	---------------	---

番号	課名	グループ名
G - 31	文化・文化財課	文化財研究室

事務事業名		臼杵磨崖仏第3期保存修理事業						新規・継続	継続	
								ソフト・ハード	ソフト	
総合計画との関連	主要施策名(施策コード)	V-15-35	歴史・文化遺産の保存、継承							
	関連施策名(施策コード)	IV-9-18	歴史・文化遺産の活用による観光産業の発展							
基本項目	事業内容(経緯)	ホキ石仏1群の覆屋改修工事実施設計、ホキ古園石仏の法面改修工事(防水庇設置)を実施しました。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値	
					H25	H26	H27			
		①	保存修理事業費	事業費	千円	37,756	3,682	56,134	5,597	250,030
		②	法面補修事業費(うち法面補修分)	事業費	千円	18,279	17,940	17,499	3,286	57,000
	③									
	④									
事業対象	市民・観光客	成果	臼杵磨崖仏の保存に適した覆屋の設計が完了したことで、次年度の円滑な工事施工が可能となり、磨崖仏の保存環境向上につながることができました。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値		
				H25	H26	H27				
	臼杵磨崖仏第3期保存修理事業の進捗率	H23~H29の予定事業費 307,030千円に対する 遂行済み事業費割合	%	18	25	48	51	100		

コスト	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
事業費+人件費	8,883		4,364		4,300		219

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	臼杵磨崖仏は磨崖仏としては、全国で初めて国宝に指定された貴重な文化財です。臼杵市にとってのみならず日本国内においても大変貴重な文化財であるこの臼杵磨崖仏をより良い状態で後世に伝えていくことは大切な責務です。
		A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	
		目的や目標に照らして予想される効果が得られるか	
有効性	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	ホキ石仏第1群に続き、第2群及び古園石仏群の法面改修及び古園石仏覆屋改修に伴い磨崖仏へ浸入する水をかなり減らすことができ、仏体の適度な乾燥状態を保つことが可能となったため、磨崖仏保存環境が大いに向上しています。	
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	国庫補助事業として事業費の50%、県費補助として事業費の8%のを受けて実施しました。
事業の問題・課題	事業の指導監督者である大分県・文化庁と連絡、相談を密にし、修理委員会で実効的な検討を行うことで、保存環境の向上を効率的なコストで実施できる体制を継続していく必要がある。		
前年度の改善案	事業を円滑に進めていくうえで、国(文化庁)及び県との綿密な連絡体制をとっておく必要があります。		
具体的な改善案	事業の指導監督者である大分県・文化庁と連絡、相談を密にし、修理委員会で実効的な検討を行うことで、保存環境の向上を効率的なコストで実施できる体制を構築していますので、今後も継続します。		

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する(重点継続)	理由	保存修理委員会において国(文化庁)より通常の管理行為の充実を強く求められていることから、来年度より監視カメラ設置の代替策として人的な観察・監視体制により通常管理を強化する。
------	------------------------	----	--

番号	課名	グループ名
G - 32	文化・文化財課	文化・文化財

事務事業名		市内遺跡緊急調査事業					新規・継続	継続		
							ソフト・ハード	ソフト		
総合計画との関連	主要施策名(施策コード)	V-15-35	歴史・文化遺産の保存、継承							
	関連施策名(施策コード)	IV-9-18	歴史・文化遺産の活用による観光産業の発展							
基本項目	事業内容(経緯)	田篠台遺跡及び戸室台遺跡において、開発に伴う確認調査を実施しました。又、下藤キリシタン墓地については、前年度埋戻しが完了しましたが、今年度については、伐採した竹木の処理を実施しました。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値	
					H25	H26	H27			
		①	文化財保護法第93条に関する届出についての周知広報回数	同法93条の届出の提出を開発計画者や一般市民へ徹底	回	1	0	1	1	3
		②								
③										
④										
事業対象	市内周知遺跡内での開発計画者一般市民	成果	確認調査の実施により開発計画者の費用負担を極力軽減し、迅速に調査後の対応ができました。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値		
				H25	H26	H27				
	93条届出提出の遅延回数	工事着工60日前までの提出期限の遅延回数	回	2	3	7	8	3		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	3,465		1,685	269			1,511

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か		市民や市のまちづくりにとって重要な遺跡を保護する必要があるため、事前調査が必要であるが開発計画者の計画を狂わせてしまうことになるため一部適応していません。
		B	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		事前に各遺跡の内容や広がり把握することができ、遺跡の保護措置と市民に対する情報提供をすることができるため効果あります。	
	A	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか		発掘の届出が必要な箇所についての開発が毎年増える中で、以前行った確認調査の情報を参考に適切な調査方法を検討することでできているので、効率的な効果ができています。	
	A	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	試掘・確認調査を行うのか立会調査にするのか明確な基準がないので、開発業者に納得してもらえるような説明をすることが困難なことがあります。施工深さが遺構面に達しない場合は確認調査を必要としないことで開発業者の理解を得るようになりました。			
前年度の改善案	開発業者に納得してもらえるように、課内で明確な基準を設ける必要があります。			
具体的な改善案	93条申請提出前に開発者のヒアリングを実施し、工事内容を把握したうえで工事による掘削深度が遺跡の存在する深さ(遺構面)に達しない箇所については確認調査を必要としないようにしました			

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	93条申請の届出に関する広報啓発活動を定期的に行うことで開発事業の円滑な進捗が図られるとともに文化財保護への理解も併せて促すことができます。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート  
(平成 28 年度)

番号	課名	グループ名
G - 33	文化・文化財課	文化財研究室

事務事業名		臼杵市歴史資料館運営事業					新規・継続	継続		
							ソフト・ハード	ソフト		
総合計画との関連	主要施策名(施策コード)	V-15-35	歴史・文化遺産の保存、継承							
	関連施策名(施策コード)	V-12-29	学校と地域、家庭の連携の推進							
		V-14-32	生涯を通じた学びの推進							
基本項目	事業内容(経緯)	年4回の企画展を実施し、市所蔵の絵図を中心とした歴史資料を市民や市外からの来訪者に公開しました。また、市内の多くの子どもたちに臼杵の歴史と文化に触れてもらうため、学校から資料館までの交通手段を支援する「キッズプロジェクト」を新たに企画しました。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値	
					H25	H26	H27			
		①	企画展示回数	年間の企画展示回数	回			4	4	4
		②	学校教育での利用	年間の見学件数(のべ)	件			12	11	20
③	各種団体での利用	年間の見学件数(のべ)	件			49	49	60		
④										
事業対象	市民(一般、児童、生徒)、各種団体、市外からの来訪者等	成果	4月の熊本地震の影響で、春の観光シーズンの来館者が著しく減少しました。しかし、夏以降は一般市民、市外からの来館者数は持ち直し、5,334人の方々に貴重な史料をご覧いただきました。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値		
				H25	H26	H27				
	入館者数	年間の入館者数	人		6,867	6,702	5,334	7,000		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	19,193					2,600	16,593

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	歴史的価値が高い市所有資料の公開は、多くの市民の方々から望まれていたことであり、その展示公開を実現しています。
		A		
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	来館者数が伸び悩んでいます。また、学校の利用も低調です。
B				
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	来館者数が伸び悩んでいるため、来館者一人あたりにかかるコストが割高となっています。	
	B			
事業の問題・課題	年度当初の熊本大分地震の影響により、市外からの来館者が大幅に減少しました。今後は市内外の方々に来館してもらい、臼杵の歴史と文化を理解してもらう場として有効に機能させる必要があります。			
前年度の改善案	周知広報の改善を行います。また、学校利用の増加を図るため、「キッズプロジェクト」を企画し、学校利用の支援を行います。			
具体的な改善案	ソーシャルネットワークの活用等ネットでの情報発信拡大、マスメディアなどの広報の改善を行います。また、学校との連絡を密にし、「キッズプロジェクト」をより活用しやすい企画に練り上げていきます。			

課長評価	重点化する(重点化)	理由	歴史資料館はこれまで入館者数の伸びがかんばしくありません。より多くの方に来館していただけるよう観光部署との連携、SNSを使用したPR強化、関連イベントの開催等に取り組みます。
------	------------	----	---